未来研究の諸相　パート1

未来研究の系譜

未来工学研究所50年の歩み

未来工学研究所　フェロー
日本未来学会　常任理事
和田　雄志

1964年　東京オリンピック

1968年　日本未来学会　設立

1969年　人類、月面着陸

1970年　国際未来学会（京都で開催）
日本万国博覧会

1971年　財団法人未来工学研究所　設立

1972年　ローマクラブ「成長の限界」
日本列島改造論

1973年　第1次石油ショック
「日本沈没」（小松左京）

↓
未来論ブーム

未来工学研究所・前史

1950年～70年代

戦後の闇市から、「もはや戦後ではない」へ

＊1956年版経済白書

1945　終戦

1950　朝鮮戦争

1960　安保闘争

1960年代

大衆消費社会の幕開け

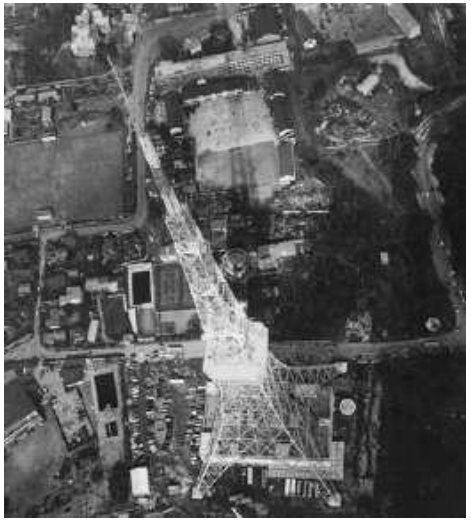
1961　クーラー

1961　カラ―テレビ

1961　トヨタ・パブリカ(初代)

新・三種の神器
3C = Car+Cooler+ ColorTV

都市化と大規模国土開発



1958　東京タワー

1962　千里ニュータウン

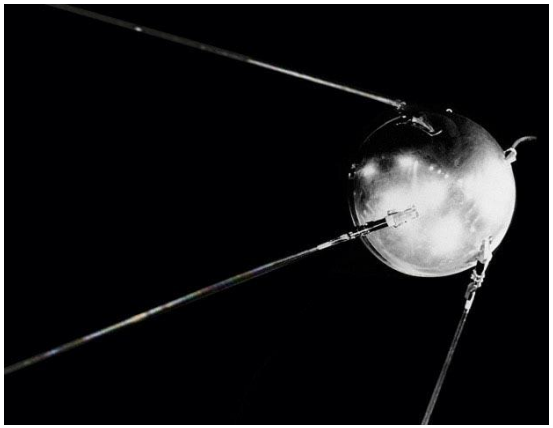
1962　首都高速道路

1964　東海道新幹線

1968　霞が関ビル

1964　東京オリンピック

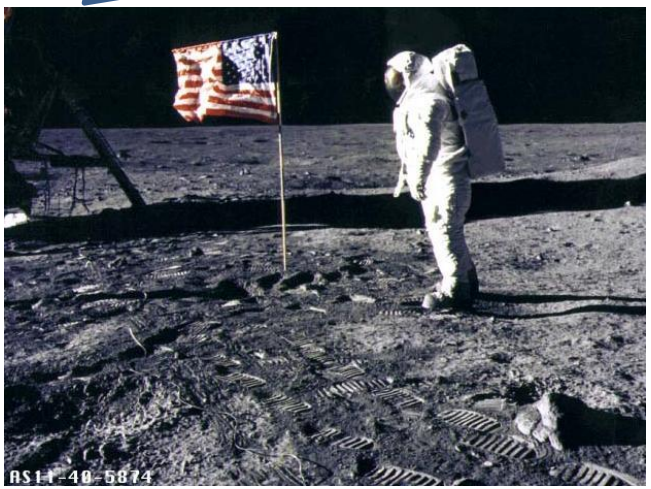
宇宙開発時代の幕開け



1957　初の人工衛星

1957　ペンシルロケット
（日本）

1961　初の有人宇宙飛行



1969　人類、月面着陸

原子力の光と影

1945　広島・長崎に原爆投下

1954　第五福竜丸被曝

1955　原子力基本法（日本）

1961　ソ連、史上最大の水爆実験（50メガトン）

1963　初の原子力発電（東海村実験炉）

1963　初のテレビアニメ「鉄腕アトム」

経済成長のツケ～公害問題

1967～　四日市公害訴訟

1968　大気汚染防止法

1968　水俣病、政府が因果関係認定

「貝食う会」の5人　（1967年）

加藤秀俊
（社会学、37歳）

梅棹忠夫
（文明学、47歳）

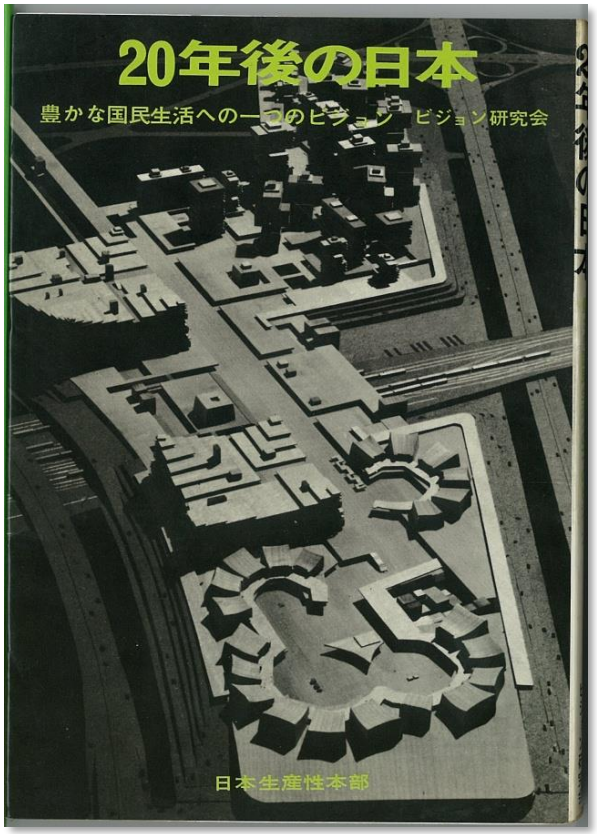
林雄二郎
（経済計画、51歳）

川添登
（建築評論家、41歳）

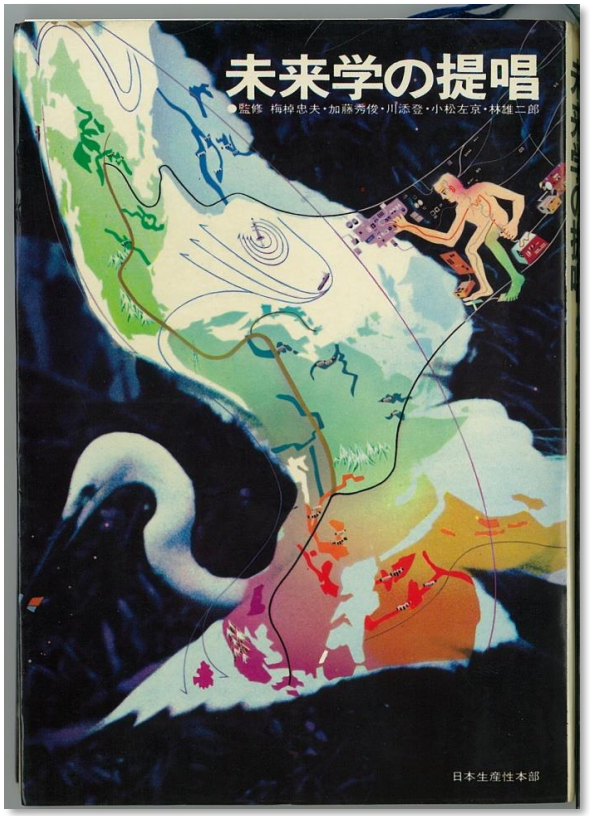
小松左京
（作家、36歳）

未来研　初代所長

林雄二郎の未来関連著作



1966年



1967年

1969年

- 未来工学研究所　設立前後

1967　　科学技術と経済の会（JATES）発足

戦前からの「官公庁技術懇話会」(逓信省・内務省系)から生まれた。米澤、大来、土光、小林、駒井、安川らのテクノクラートが主導。

1968　　JATES内に技術予測手法研究グループ（FROG）
日本未来学会設立

1969　　産業予測特別調査団が訪米（団長：小林宏治）
＞技術に特化したシンクタンクの必要性を痛感

1970　　第2回「国際未来学会」(京都）

1971.2　　**財団法人未来工学研究所　発足**（科学技術庁認可）
理事長：安川第五郎、副理事長：駒井健一郎＆篠原登、
初代所長：林雄二郎

…

2013.4　**公益財団法人化**（平澤理事長）

シンクタンクブーム
1965　野村総研
1970　三菱総研、日本総研

１９７０年代:未来研究の特色

１）未来への期待と不安が錯綜
２）技術が未来を切り開くというテクノ信仰？
３）先進モデルとしての米国がお手本
４）未来の研究手法が花盛り
５）「日本株式会社」としての一体感

50年間の主要研究領域の変遷と社会動向

■1970年代

・日本型科学技術開発システム（科学技術庁）
・テクノロジーアセスメント/技術予測
・電気通信システムの未来形（流通、画像、OA等）
・宇宙開発（スペースシャトル、人工衛星利用等）
・地震予知情報システム、都市防災システム
・省エネルギー技術・環境問題

1970 大阪万博
1972「成長の限界」
「列島改造論」
1973 第1次石油ショック
1976 東海地震予知説

■1980年代

・電気通信システム（ISDN、VAN、ハイビジョン）
・研究開発戦略、研究人材
・ニューメディア、地域情報化（テレトピア等）
・月面基地・衛星利用

1986 チェルノブイリ事故
1989 ベルリンの壁崩壊

■1990年代

・インターネット、サイバーセキュリティ
・地域科学技術政策
・高齢者ケア・福祉

1995 阪神大震災
電電公社民営化
Windows95発売

■2000年代

・重要インフラ対策、リスクコミュニケーション
・科学技術と文化
・少子高齢化社会

2001 米国同時多発テロ
2008 日本の人口減少へ

■2010年代

・次世代人工知能、ディープラーニング
・技術革新と安全保障

2011 東日本大震災
2015 パリ気候協定締結
2016 囲碁界でAI優位

これからの未来研究のあるべき姿とは？
（個人的見解）

１）「予測」から「エンジニアリング」へ

Institute for Future Technology（IFTECH）

→　Institute for Future Engineering (IFENG)

２）新しい価値観・世界観に基づく未来研究：３つの「脱」

①「脱・経済成長至上主義」
②「脱・西洋型」の価値観・世界観
③「脱・人間中心主義」

３）AI時代のシンクタンクの役割創出

データは活用するも、シンクタンカー独自の視点が不可欠

４）産官学以外の新しいステークホルダーとの連携